

追悼集

長門
追悼集

834-2 (清)

俳諧資料カード

年代	天保5
編者 (筆者)	西澤花村 丸木赤良
書名	追悼集
備考	長門 エツカ 如右(追善)

(下垣内蔵)

7-3

追悼

長州紫津ヶ浦

由志松礼集

水連洞萍化坊撰
不易亭男文松編

寛小不慮勿亭れまゝ如松老人や

此志のり浦の高家よりと所謂

三代の英名は幾く公高の故より

後年一より如く此亭の比より

慈父のを一人をちりむりり

正凡の俳諧より松ひくもその

時の変化を甘ん一平生制

原のよきより涼く出入人と

導きよ欠くる成補ひ思ふる成

助け甘恩澤より流るもれ

少くもよみく言名曲万よ
即ち化邦の凡友多く度く
人智洞くくくく天保四年
己乃孝まより病くく
起臥安くく孝子文松子きよ
おとろくくく醫術ありを
計茶葉の樹をほくくあくと
くく甘寝なく幸もこれ行
幸のままなき夜長く世世の
別をまきくく口習もくも

寂光宗蓮院とありたすあま
さの忠甫の社中まきく
色ききりお凡友より悲悼の
一章とま向くくあくく
佛前くゆく様生前く圓の
人くく抱く様お一まきく
是を指り小冊くく幸を
法凡子くくくくく
幸くく交あれくくまきく
くく起りせまきく需もくく

事一ありて後今別一して終んで
園夜一して灯を去る一して
壮志とて一紅霞は神を去り
やうやく平生の夢は一葉他
一に於て人私を酒一と云一
多一の松二一章を指より低
既合れを事一と云

新筆の御手紙に於ての松分 男 文松

多し此の御手紙をよみては
手に入らぬと云ふと云ふ
情大伴の御手紙と云ふ一
の御手紙十冊の御手紙
と云ふと云ふ御手紙と云ふ
よ御手紙一と云ふ御手紙
を御手紙の御手紙と云ふ
御手紙一と云ふ御手紙
御手紙一と云ふ御手紙
御手紙一と云ふ御手紙

置きよ〜〜〜杉や 啼鳥 舒香

美人よ〜〜〜日本橋や くら戀 為三

夕月や〜〜〜柳ふ 筆の美 芳州

當所連中

晴〜〜〜月竹と あり 陸小 之誘

淵〜〜〜と 雲よ 入る 既之 可狂

海棠や〜〜〜を ぬかふ 雨の 文法

難〜〜〜と 牛も 踏ま 田植 和狂

谷川や〜〜〜も 流〜〜〜 喜む 意石

心〜〜〜と 葉持〜〜〜 流〜〜〜 和琴

春〜〜〜と ぬい 味ひ 春〜〜〜 秋 簑芳

雨〜〜〜と 近ひ 星 露と 楓 可流

昔 園公 合点 して 柳 下 花 子 梅子

夢 竹 雨 の あり 云 流 和 筆 の 美 双典

存 ね 考 々 序 々 而 中 々 櫻 花 文松

因 了 海 の 一 一 一 系 丸 ち 可 貴

老の世となりて身軽し衣更素
 ぬかりては海士やとらふ是は餐
 可續
 有滯
 佳石
 稀人よ多々笑ふもく様くの申
 祝之
 聖日もいふ人静し心静しお様
 祝之
 都之詔ゆぬおれ挽留了
 可興
 老の杖
 岸化坊
 谷川遊加

静ふ浦ありぬねのこりしゆ漏念六日
 寂光去は越やとれしとれ計善し
 形なき年久ま固くも羨幻飽美乃
 こころア教りの波を留めて
 半
 お解く一おもなりえのち
 春海

ぬね老人の意外礼上の意

あつたふおれく

月雪やたしひめくは友の意

陸松を

恭二

ぬ松老人の計書より終るに松島
遠辨一はちやまを可く又松島
の孝行を著るるもあはれ減は
も追福の集と編こころ海内
まゝあはれ篤信と新撰一
初くありよふにまゝ

臣松平

亡ぶ路もなきごころのまゝ

梅二

雲水松

天保五年やま

蕉門書林
皇都寺町通二條
橋屋治兵衛梓

了

